

車座トーク（自治会と市長との意見交換会）開催報告

対象地域：相賀自治会

開催場所：相賀小学校クラブハウス

開催日時：平成 28 年 10 月 19 日（水）19 時 00 分～20 時 50 分

参加者：自治会側【地域住民の方 21 人】

市側【染谷市長、濱田教育長、牛尾理事、横田川健康福祉部長、畑教育部長、秋山協働推進課長、駒形戦略推進課係長、山内協働推進課係長】

内 容

① 天野自治会長あいさつ

- ・お仕事でお疲れのところ集っていただきありがとうございます。市長には、このような機会を設けていただき、また敬老会にも御臨席賜りありがとうございます。
- ・世の中は東京五輪のボート会場の話に終始しているが、国、県、市の抱える問題は少子高齢化で、相賀地区も子どもの数が減ってきている。一方、毎年開催している敬老会の対象者は増えてきている。この地区も少子高齢化が加速度的に進んでおり、様々な問題が生じてきている。このような課題を解決していくためにこういう機会を設けていただきありがとうございます。
- ・市長とお話する機会はなかなかないので、この機会を活かして忌憚のない御意見をいただきたい。
- ・本日は町内会の役員を中心に参加しているので、参加者の意見は、地域の総意（意見）である。
- ・本日の討論が、今後の相賀地区に役立つものになればありがたい。

② 市長からの市政報告

■はじめに

- ・今までは『市長と語ろう』ということでやってきたが、呼んでいただくところと呼んでいただけないところがあったため、この車座トークは、市内全ての 68 自治会をまわるといって実施している。
- ・また、今年と来年の 2 年をかけて次の総合計画（H30～37）の策定作業を行っているが、この他にも、国土利用計画島田市計画や中心市街地活性化基本計画、公共施設再配置計画などの策定もしていく必要があることから、各地域の課題、特色や人材、さらにはどのような取り組みをしているのかを耳で聴き、肌で感じて、それを市政に反映したいということでまわっている。
- ・この地区は相賀小学校の児童に対して、日ごろから地域の皆様の御理解、御協力を賜っていることに感謝申し上げる。これだけ地域の力が発揮されてい

る地域はないと思うし、この地域の子どもは幸せだなと思う。相賀谷太鼓をはじめ地域色豊かな取り組みをされている。

- ・「みんなの三鷹」と交流されている。こうした市民交流は、私が目指すかたちである。
- ・これからの地域振興、地域の活性化は、そこでコアになる人材を以下に育てるかということにかかっている。ここにはコアになる人がいてコアとなる人を育てる力があると思っている。そうした意味で相賀地区の力を高く評価している。

■相賀自治会の人口、世帯について

・相賀自治会の9月30日現在の世帯数は329世帯、人口は999人で、高齢者人口は292人、高齢化率は29.2%となっている。市の平均が29.5%なので、3ポイントくらい低い。15歳以下の人口は106人で人口に占める割合は10.6%となっている。市の平均は13.8%なのでいくらか子どもの数が少ない、若い世代が少なくなっている。

■9月補正予算の概要について

- ・メタンガスが川根温泉から噴出している。このメタンガスを使って発電をしようという取り組みの発電装置を整備するために1億8,000万円ほどの予算を計上している。これは今年度末までに工事を完了する予定。・川根温泉ホテルの年間電力使用量の約6割を賄える。熱源は川根町温泉で活用する。全国でも例を見ない事業である。
- ・島田は風力発電はないものの、太陽光、バイオマス、水力発電、メタンガスなど自然エネルギーの発電量が市内の発電量の約3割を占め、県内一である。
- ・この北部地域への光ファイバー網の整備費として1億8,000万円を計上している。2分の1の補助をするので、事業費は3億6,000万円となる。
- ・市内の世帯数37,600世帯のうち3,000世帯（人口8,720人）に光ファイバーを整備することが目標だが、この3億6,000万円ですべてができればいいが、どこまで整備できるかは公平な立場で見ていただく協議会を設置して、民間の事業者への手上げをしていただいでそことも協議をして、どこまで整備できるかを決めていきたい。
- ・ほとんどのところができると思うが、債務負担行為として補正予算にあげている。平成29年度中に着工、供用開始を計画している。
- ・対象地域が決まり次第お知らせしていく。

■行政（政治）の役割が変わってきていることについて

- ・島田が今、一番課題としていることは人口減少。うまくいって2割減（8万人）。国立社会保障・人口問題研究所の推計（6万人）という厳しい数値が出ている。
- ・団塊の世代が全て後期高齢者になる2025年から2030年までの間に高齢化率が4割を超え、2030年から人口自体が減少していく。
- ・働く人の人口が半分くらいになってしまい、税収も減少する社会が目前に迫っている。

- ・明日は今日より良くなるといった（高度成長期）と違って、いつリストラになるかもしれない、給料も上がるかわからない、土地が値上がりする目途がないことに加え、空き地や耕作放棄地が増えていく時代にあつて、公共施設も合併によって3倍近くになっているものもあり、維持修繕の経費も多く掛かっている。ただ、合併して10年を経過する中で、地方交付税も段階的に減らされていく。15、6億円くらい減らされているのではないか。
- ・公共施設は276施設663棟の建物がある。この施設に係る修繕費の費用はこれからの40年間で2,515億円かかる。年間63億円にもなる。今は維持管理・更新に年間36億円かけているので、その1.75倍となる。このことから、施設のあり方を検討をしていかななくてはならない。
- ・医療や介護教育にもお金がかかる一方、税収が減るため、集中と選択を重ねて、賢く使うことを考えていかなければならない時代になった。
- ・右肩上がりの時代は、市長は自分の任期で何をやるかということが、例えば市長がやったこと、市長は何を造った、市長はこの道を造ったなどというように。しかし、これからの時代の市長は、10年先の島田のために、今何を選択するかという、そういうことが今の私の役割だと思っている。自分のときだけいいのではない。そここのところは完全に、時代が変わったと私は思っているので、10年先にここに暮らす人たちが豊かに暮らせる社会をつくるために、今自分は何を判断するかということが自分の仕事だと思っている。
- ・例えば、区画整理の話になるが、六合の駅南地域において、平成6、7年頃、面的整備をする計画があった。区画整理には減歩が伴うが、土地が右肩上がりの時には資産価値は変わらない仕組みだが、地元の反対があつて計画を断念した。
- ・今は、道路が狭いなどで地元から面的整備をやってほしいとの要請がある。しかし面的整備ができる財源もない中、また土地の価格が上がらない状況において面的整備は難しい状況である。（線的な整備が現実的となっている。）
- ・子どもの産まれる数は1975年から減ってきて、40年間それが積み重なって表面化しているが、簡単に子どもの数は増やせない問題である。
- ・子どもを産める年代の絶対数が減ってきた。産むことの出来る女性の絶対数が減ってきているので、子供の数が急激に増えるということは難しい。
- ・今、手を打っても、すぐに子どもの数が増えることはない。子どもを産めるお母さんの絶対数が減っていることから合計特殊出生率はすぐには改善しない。
- ・これからのまちづくりに必要なのは地域の住民の力である。地域課題を行政と一緒に解決していくことにお力添えをいただきたい。
- ・例えば、道悦島の生活支援サービスについて、蛍光灯の取替え、火災報知機の設置などについて、地元の方がお手伝いするという取り組みで、1時間500円。お互いが助け合うということで取り組みをはじめたところもある。
- ・放課後児童クラブの運営を地元で行っているケースや放課後児童クラブ（隣接校）まで地元住民が児童を送っていく取り組みもある。
- ・交通弱者、買い物難民に対して、車や保険等を行政が支援して運行を地元でお願いする方法も検討されている。
- ・国も社会保障費に経費が掛かる時代にあつて、何とか医療費を削減しようとする中で、2025年を目途に医療制度改革を行う予定になっている。
- ・病院・施設から在宅へという流れ。こうした中、高齢者の見守り、高齢者が元気にしているかという見守りは地域の力が必要であると思う。
- ・地域包括ケアシステムは市内6か所に拠点を設け、専門のスタッフを配置して、住まい、生活、介護予防、医療、福祉の事案について相談に乗っている。
- ・こちらもち地域の力を借りて、住み慣れた地域で最後まで暮らしていけるような流れとなっている。

・この4月から24時間訪問看護ステーションをはじめた。市内の開業医が高齢化に伴い往診も難しい中であって、医師の指示書に基づいて、専門のナースが自宅に伺い、入院が必要な場合には市民病院へ、そうでない場合には医師の指示どおりの医療行為を行うもの。8人のナースの体制で、市民病院の健診センターに拠点を構えている。

- ・弱い立場の人に住みなれた地域で安心して暮らせていける、そういう地域にするということは、政治の根幹だと思っている。
- ・島田市は結婚している人たちからは選ばれているまちだと思っている。結婚している人たちは平均して2人以上の子どもを産んでいる。
- ・ただ、男性の生涯未婚率は20数%となっている。初婚年齢は女性が29歳、男性が30歳となっている。子どもが減少する要因の一つとなっている。
- ・大学を出て10年間働かないと一人前になれないような状況や、育休、産休がとりにくい社会では、なかなか子育てはできない。なにより、若い人たちが結婚したいという社会にしていくことが必要。

■稼げるまちへの取り組みについて

- ・島田金谷インターチェンジ周辺に賑わい交流拠点の整備を考えている。
- ・NEXCO 中日本、大井川鐵道、JA 大井川、島田市の4者が連携し、地域の特産品を集めた販売所や、カフェやレストランなどが入る施設を建設する予定。焼津からは魚を売る施設も入ってくる。売り場面積が今のところ日本一のマルシェとなる。大鉄は新駅建設も検討している。また、市は、新東名の下に、国の占用許可をとって、約1,000台弱の駐車場を造る予定となっている。・奥大井につながる観光の拠点であり、大井川流域の農産品をここに集めて売る。
- ・最近国土交通省も「パークアンドライド」といって、一端料金所を降りても、通過したときの料金と変わらないシステムも考えていることの報道もあった。
- ・平成30年5、6月頃には着工できると考えている。
- ・あそこの周辺の84ヘクタールの受益地の除外、農振、大井川土地改良区の受益地の除外へ取り組んでいる。工場誘致や道路整備も行っていく。
- ・旧金中跡地については、5.5ヘクタールの土地の活用について、マーケットサウンディングという方式で、どういう可能性が見出せるかを県と連携して取り組み、新たな企業を呼び込み、新たな雇用生み出していきたい。
- ・島田産業支援センター（おびサポ）は、4月12日に開所したが、市内の98%を占める中小企業の相談、起業・創業、経営支援、補助金の申請、異業種との連携などあらゆる相談に応じている。年間1,200件の相談件数を予定していたが、半年で1,468件となっていることに加え、市外からも相談がある。島信の支店長クラスだったスタッフのほか、相談内容に応じてスタッフをそろえている。事前相談制となっている。
- ・このような取り組みにより市内の1社1人でも雇用が増えればと思っており、若い人に仕事がある、住めるところがあるような取り組みを進めたい。
- ・島田に対して、こんなにいいまちはないと言ってくれる方もいる。19回目の赴任地となった警察署長はここが一番いいところだとお世辞抜きに言ってくれている。
- ・住みやすいまち、若い人、子育て世代にターゲットを絞って選ばれるまちを目指していく。このため、0、1、2歳をみる保育園の整備を考えている。

75人定員で、0，1，2歳児が60人、その兄妹が15人を定員としている。平成29年度に2箇所を整備することを目標にしている。

・法的に待機児童という人だけでなく、子どもを預けて働きたいという人も預けられるような保育所を整備していくことが必要。(島田に行けば保育所には入れるというメッセージになる。)

・10月の市政羅針盤に書いたが、地震の揺れで危険性が高い木造住宅が約7,000戸あることがわかった。耐震性がないと、建物倒壊による火災の発生が危惧され、避難時の道路をふさぐ、隣家に被害が及ぶなどの被害のリスクが高まる。

・こうしたことから、耐震化を推進するため、県内トップクラスの耐震補助を行っている。一般世帯で60万円。高齢者世帯で80万円。県も10万円プラスすることを言っているので、それぞれ70万円、90万円となる。

・耐震補強が困難な方には、6月の補正で耐震シェルターの設置費用等で35万円を補助する。全額市の補助でできると思うが、若干、自己負担が生じるかもしれない。おおりの西側に展示してある。また、防災ベットについては、20万円を補助する。7，8，9月だけで県内の昨年1年間分を超える申込み件数があった。

■市民会館について

・現在、解体は終了して更地になっている。今年度中には舗装をしていきたい。帯桜があるところは、少し広めの帯桜パークのようなものをつくって市民の憩いの場やイベントの場として活用してもらえるようにと考えている。当面の間は、駐車場、賑わい広場、中心市街地の防災の避難地として使っていく予定。

・市民会館は県内でも早く建設され、音響設備など立派な建物であった。私たちの誇りでもあった。早くできた分、老朽化も早く耐震性もないことから、今回解体するという事に決めた。

・これに対して、同じものをつくるとなると、70～80億円、100億円という事業費になることから、病院建設をまず優先して行うことを選択した。病院に目途が立った段階で、市民会館と市役所(築53年)、おおり(築34年)、建設検討委員会を立ち上げて(病院の設計に目途がたった段階で立ち上げていきたい。)、周辺を一体とした整備について検討する。

・複合施設や民間を活用することも方法の一つであると考えている。先日訪問した市役所は、庁舎の上がホテルになっている。民間のホテルに建物を建ててもらい、そこに市役所が入るといった手法をとっている。市役所上部をマンションにしている事例もあり、時代の流れや要請を合わせながら、市役所周辺のあり方について検討していきたい。

・どこの街にも、美術館、博物館、図書館、大きなホールがある時代ではなくなっていることはご理解いただきたい。

・広域で公共施設の利用を考える時代となっている。志太3市では広域での相互利用(管理)について検討をしている。

・目まぐるしく進歩する時代(人工知能や自動運転の技術)にあって、10年先を読むことは難しいが、今までと同じ対応では済まされないことは確か。

・皆さんと一緒に、まちづくりを進めていきたいと考えている。

③質疑応答

番号	質問内容	回答内容
1	<p>■防災機能としての大井川マラソンコース延長の早期実現について</p> <p>大井川マラソンコースは、当初防災道路の機能を持つ施設として神座まで整備することと計画されたと理解している。しかしながら、相賀地区の途中でストップしているが、牛尾山の工事終了後には、当初の計画どおりの神座まで延長するよう国に要望していただきたい。マラソンコースは、地震等により島田川根線が赤松付近の山崩れにより通行できなくなった時の代替道路として不可欠なものとなる。また、道路に入るところの整備についても検討をいただきたい。</p>	<p>●大井川多目的河川敷道路は、災害に備えるための緊急用河川敷道路としての利用を期待しており、また、しまだ大井川マラソンコースとして地域活性化においても地域づくり・健康づくりの重要な拠点となっている。</p> <p>大井川の整備促進については、市独自の要望活動や、島田市が会長を務めている「大井川改修期成同盟会」において国交省本省及び中部地方整備局に対し積極的に要望活動を実施している。</p> <p>要望の中で、神座地先の堤防の早急堤防嵩上工事並びに低水護岸整備、またそれに伴う、緊急用河川敷道路の延伸整備（神座までの延伸、新東名側道への接続）の促進を強くお願いし、出水時における流域住民の不安を解消すると共に、周辺の河川環境整備の促進について要望活動を実施している。</p> <p>国土交通省も、道路整備の予算が15、6年前の額の3分の1という現状において、社会資本整備総合交付金もなかなか付かない。</p> <p>緊急輸送路なので、一般道路にはならないことはご理解いただきたい。</p>
2	<p>■コミュニティバス（相賀線）に関することについて</p> <p>昨年度のコミュニティバスの見直しにおいて、相賀線が存続していただいたことに対して感謝している。ただ、時刻が以前のように一定ではなく時間帯によって異なっているので覚えにくく、予定も立てにくいのが現状であるので、以前のような時刻表に変更できないかご検討をお願いしたい。</p>	<p>●コミュニティバスの見直しの目的は、将来にわたり持続可能なバス運行を目指したものであり、利用状況に応じ、これまでの1時間に1便（1日14往復）の運行から、1日9往復の運行とした。ご質問のように、定時運行するためには、運行本数を増やすか、2時間に1便にするしかない。多くの路線を定時に運行するためには、車両は台数に限りがありますので、非常に困難である。これらの点をご理解いただき、バスの運行にご協力をお願いしたい。コミバスの運行経費は年2億4千万円となっている。</p> <p>ご意見は今後の検討項目にさせていただく。</p>
3	<p>■光ファイバーエリアの拡張について</p> <p>ICTの時代にもかかわらず、島田市の北部地域には光回線が整備されておらず、インターネット等の利用に支障をきたしている。9月市議会</p>	<p>●なんとか事業化に向けた目途がたってきているのでがんばって取り組んでいきたい。</p>

	<p>において、来年度以降の光回線整備の予算化が決まったと伺っている。相賀地域への早期実現をお願いしたい。</p>	
4	<p>■相賀、北部地域の活性化について</p> <p>相賀を含む北部地域は、お茶とみかんを中心とした農業が盛んであった。しかしながら、最近の茶価の低迷により、荒茶工場の閉鎖や耕作を放棄した茶畑が増加し、地域の農業の衰退が著しい。さらに、農業者の高齢化や担い手不足から水田の耕作放棄地の増加が目立ってきた。緑プロジェクトを活用した取り組みをはじめているが、相賀を含めた北部地域の農業振興となるような市独自の施策をお願いしたい。</p> <p>また、市が進めている緑茶化計画について説明願いたい。</p>	<p>●茶価等の低下からくる農業経営の先行き不安、農業従事者の高齢化、後継者不足等により耕作に不安を感じている農家の方がいらっしゃること、また、耕作放棄地が増加していることも認識している。この問題は、相賀地区に限らず市内全域の問題と捉えている。これをやればという特効薬がない中で、若い方が農業をやれる環境をつくっていくこと。国は新規農業者への補助金を付けない中で、市単独で新たな農業の担い手確保のため、新規就農者支援制度を創設し、100万円の助成をすることとした。</p> <p>その他、お茶の海外輸出や有機JAS認証取得、碾茶・抹茶製造など、お茶の新たな取組みなどにも、支援を始めた。また、お茶の改植はアールあたり12万円の補助が出ていると思うが、皆さんからの要望を、少しずつ対応していくしかないというところが実感である。</p> <p>島田市では、茶園の基盤整備事業や耕作放棄地対策事業を専門に行う嘱託員を配置している。昨年は農林水産大臣賞を受賞するほどの成果も挙げている。来年はお茶を売る方の専門員の配置も検討をしている。</p> <p>農業委員会では、農地の貸借及び売買の相談業務や、担にない手に農用地を集積して効率的な経営を促進する事業等を行っている。</p> <p>国も中間管理機構を作って、これから農業をやっていく人や法人経営など、稼げる農業としていくことに力を入れている。</p> <p>農業の担い手を確保・育成し、地域農業を振興しながら、農地を維持していきたいと考えている。</p> <p>金谷の西原地区では若手の農業者がお茶の経営に乗り出している。切山地区でも同様の動きがある。</p> <p>島田市緑茶化計画はシティプロモーションである。</p> <p>市内、国内、海外の3段階で考えており、海外には売れるお茶を作っていることや、国のターゲットを定めて対応すること。国内は、島田は緑茶</p>

		<p>のまちなんだということを定着させていくこと。プロモーションビデオを6本作製して、もうじき披露できると思う。（お茶へのこだわりが題材となっている。）市内には、市民が誇りを持って言えるようにするためのブランド茶4種類を作製している。お茶と言う農業だけではなく、お茶文化の定着を市内外に伝えていくこと。</p>
5	<p>■相賀谷川の浚渫工事の拡大と倒木の対応</p> <p>相賀谷川の浚渫工事については、一昨年度から計画的に実施され感謝している。しかしながら、まだ未実施箇所があり、さらに最初実施した場所での堆積が顕著になってきているので、予算の拡大を県に要望していただきたい。また、相賀谷川の上流部での倒木が顕著で要望してあるが、早期の対応をお願いしたい。</p>	<p>●相賀谷川に関する土砂の浚渫、護岸の修繕等については、毎年自治会から要望書が提出され、河川を管理している静岡県島田土木事務所をお願いし、その都度土砂の浚渫、護岸の修繕について対応していただいている。維持修繕に係る県の予算については、大変厳しい状況であると聞いているが、引き続き河川の維持修繕について要望していく。また、地元自治会からも引き続き要望書の提出をお願いしたい。こういうお話をいただくたび、私からも県をお願いをしている。</p> <p>相賀谷川上流の倒木除去については年内に業者発注する予定だが、現場への唯一のアクセス道路となる主要地方道 焼津・森線の道幅が狭いため、工事期間中は通行止めの措置をとることになると思われるのでご承知おきいただきたい。</p>
6	<p>■相賀小学校の学級支援員の存続などについて</p> <p>相賀小学校の児童数は毎年のように減少しており、それに伴い複式学級が発生しているが、市からの複式学級支援員の派遣により対応しており、市の対応に感謝している。今後とも派遣の継続についてお願いしたい。また、相賀小学校のクラブハウスや体育館は地域にとって大切な施設であるが、老朽化が進んできているので、修繕などについてご配慮願いたい。</p> <p>市内には同じような小規模の小学校がたくさんあるが、今後の市の小学校の整備方針等があればお聞かせ願いたい。</p>	<p>●相賀小については、自治会からも複式学級への学校教育支援員の配置の要望をいただいている。市としても個に焦点を当てた学習環境の充実を図るため、今後も継続して配置していきたいと考えている。64人を25の小中学校に配置しているが十分ではないと考えている。今後も複式の支援員を加配していきたいと考えている。</p> <p>クラブハウスはこの小学校にしかない。地域に小学校が愛されている証拠でもある。市内の小中学校は昭和50年代に建設され、経年劣化により修繕工事が必要なものが多いことは認識している。相賀小についても劣化していた屋根の修繕工事等を実施しているが、しばらくすると修繕した箇所以外のところの劣化が目立つようになってくるという状況が続いている。今後も状況を確認しながら、必要な修繕は行っていきたいと考えている。</p>

		<p>学校のあり方検討会を実施している。答申には地域に開かれた学校、地域層ぐるみの子どもを育てるとなっている。地域挙って地域の子どもの育てることが必要であり、相賀小学校はそれが実践されている。答申には複式学級が常態化されていけば子どもにふさわしい教育環境を検討するとされている。</p> <p>北部4小学校（伊太、相賀、神座、伊久美）の学区内で昨年生まれた赤ちゃんは16人。2人引っ越してきたので、1歳児は18人。6年後には小学生になる。</p> <p>財政的な意味で（学区の）再編を考えたことはないが、10年間教育委員を務めてきて思うことは、子どもにふさわしい教育環境は必要である。北部4校の児童はアットホームな環境で学校生活を送っているが、ある程度の規模の人との交流は必要。それは社会に出た時への対応につながるもの。</p> <p>この地域の方の御意見も聞いていく必要がある。男性、女性、高齢者、若者で意見は違うが、この地域の未来を担う子どもを焦点にして（こどものあるべき教育環境を）議論をしていく必要がある。プロジェクトチームを立ち上げて検討していく必要があると考えている。</p> <p>笹間は川根の小中学校に統合されたが、あの笹間の方が、地域の拠点がなくなるということの懸念はあったが、どうして子どもの数が減ったかと言うと、皆さんのお子さんが外に出て行ったからではないかという、子ども持つ親御さんからの意見があった。こういう意見があって、子どもがいる世代に教育環境をよりよいものにしない意見は辛いということから統廃合が決定した。統廃合は、子どもをもっている親の気持ち、若い人に地域に住んでもらうことは必要であるからこそ、そういった議論を今後（5年、10年かけて）地域の皆さんにもお願いしたい。</p> <p>この地域の杏子の郷構想があるということは、この地域は心強いことであると思っている。（交流人口、定住人口の増が見込めると考えるため。）</p>
--	--	---

7	<p>■小水力発電と光ファイバー網の整備について 小水力発電についてどのように取り組んでいくのか。 光ファイバーを活用して何をやっていくのか。その目的は。</p>	<p>●小水力発電は伊太にある。小水力発電は可能だが、発電量が小さいことや水利権の問題もあることが課題である。自然エネルギーにはしっかりと取り組んでいきたい。</p> <p>光ファイバー網の整備については、情報を取る時間（スピード）の格差の是正が目的の一つ。在宅での就労の可能になる。今の内職はインターネットを活用した内職もあることから、若い人に入ってきてもらう（定住）、外国人（観光客）に入ってきてもらう（交流）ことも目的のひとつになる。</p>
8	<p>■まとめ（自治会顧問）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・20代、30代がどのようなまちづくりをしていくか、その勉強できるシステムを作っていただきたい。10年先、20年先を背負う方の教育の充実をお願いしたい。 ・浚渫については、相賀の川をきれいにする会を組織して活動している。（300人規模） ・地域と行政と一緒にやっていく、行政依存ではダメ。補助金も削られていることも重々承知しているが言うだけでなく行動で示してほしい。 ・相賀の里をよくする会を立ち上げて3年目になるが、三鷹との交流は、三鷹からエッセンスをもらうためのもの。先日、英語塾の先生も訪問していただいているしIT産業の方も2社訪問している。こうした取り組みに市としてバックアップしていただければと思う。 	<p>●回答なし</p>
9	<p>■まとめ（自治会長）</p> <ul style="list-style-type: none"> ・相賀谷川については、川が急峻で洪水の心配がある。浚渫についてはお願いしたい。 ・自治会からの要望事項に誠意を持ってやっていただいている（土木管理課）ことについてお礼申し上げる。 	<p>●包括ケアシステム（医療、介護、介護予防、生活の支援、住まい）をトータルで支援するシステムのこと。出前講座も活用してほしい。包括ケア推進課を（地域で）呼んでほしい。</p> <p>島田市の目指すところについては、根幹にあるのは安心・安全暮らしやすいまち、弱い立場の人でも安心して住み続けられるまちと言う基本を押さえた上で、産業について「新東名インターチェンジ周辺整備、金中跡地の活用、蓬莱橋のお休み処の整備」などを通じて町の拠点の整備、おびサボ</p>

・クラブハウスは、小学校の児童と地域住民の交流の場として活用しているのですが、地域に根ざした教育の必要性の観点から、先ほど話があったプロジェクトの中で検討していただきたい。

・地域包括ケアシステムについては、我々にとってはまだ理解しにくい。包括とはなんだといった点も含めてわかりにくい。ただ重要なことであり、特に高齢者にとっては直結する話になることに加え、市民病院の進捗についても、わかりやすい広報をお願いしたい。

・島田市は多くの課題を抱えているが、かつて活気があった島田市だが最近寂しくなっている中で、島田市の目指すところは何かを聞きたい。

の活用。当然のことながら、農業への取り組み支援を行っていく。広域連携について、40年間に公共施設の21%をカットしていかないと維持管理ができないという統計上の数値も公共施設の再配置計画から出されているので広域での連携は必要だと考えている。志太3市の中では、病院であれば医師の相互派遣や得意な診療科目で診るなどの取り組みや、5市2町では、連携中枢都市圏構想として、広域観光の推進、公共施設の相互利用などによって効率的に行政運営を行っていく取り組みをおこなっていく。市民を最優先（市民ファースト）で持続可能な都市経営を行っていく。子や孫が安心して住み続けられるまちづくりを目指す。

市民病院は、今年度中に概ねの施設の状況や建設費用などを皆さんにお示し出来るようになる。造る場所は、今の病院の東側の駐車場の場所で、道を付け替えたりする。あの土地だと三角形の建物になってしまうのではないかと思われるかもしれないが、今のところはT字型のような形になる予定としている。使いやすい形にしていきたい。病床数は445床となる見込みであるが、病院を機能別で考える国の方針がある中、市民病院は救急病院としてやっていくことを選択した結果である。

建設費等については約247億円を見込んでいる。東京オリンピックに伴う資材や人件費の高騰が懸念されていたが、そのような状況は現在確認されていない。しかし、できる限りのコストダウンをしていく。

地盤については、過去にも40本くらいボーリング調査を行っている。今春、新たに6箇所調査を行った。病院の地盤は、確かに軟弱地盤であり、軟弱地盤は岩盤まで深い。一番深いところは岩盤まで30m強ある。しかし、それは粘土質であり、液状化の心配はほとんど無い。県の第四次被害想定でも、液状化の被害は少ないところとなっている。液状化というのは、砂と水が混ざって起こる。しかし、軟弱地盤のため、杭打ちが必要であり、地盤改良をすれば技術的に問題が無いということは、今春の設計会社のプレゼンテーションにおいても、何ら問題が無いという話をいただいている

10	<p>■静岡県大井川広域水道企業団の第二浄水場の候補地について 活用方法について検討を進めてほしい。</p>	<p>ので、安心いただきたい。</p> <p>●あの土地は、今の土地の価格の10倍程度で買った土地である。売っても借金が残る。構成団体である7市町が協働で出資しているため、地元で借りたいということを（企業団の）議会へ付議することはできるが、売るとは困難であると考え。様々な事情がある土地であるが、地元からの要望という形で挙げていただく中で議会での検討をしていくことが賢明な対応と考えている。</p>
----	--	---

※ 回答は全て市長から回答した。

④当日の様子

